

令和5年度（2023年度） 第3回函館市観光基本計画策定検討委員会 議事録	
開催日時	令和5年（2023年）7月28日（金）14:00～
開催場所	函館市役所 本庁舎7階 特別委員会室
出席委員	奥平委員長，古地委員，西村委員，飯野委員，渡部委員，織田委員，土田委員
欠席委員	奥野委員，中島委員，一戸委員，纒坂委員
事務局	観光部次長，観光企画課長，観光誘致課長，観光振興課長，国際観光課長，企画担当主査，企画担当主任主事
(株)北海道 二十一世紀 総合研究所	佐藤主任研究員，布川主任研究員，小俣研究員
議題	(1) 5年後の函館観光が目指すあるべき姿 (2) 基本理念について (3) 基本方針について

## ■ 議事概要

会議開催に先立ち，事務局より今回の議題について資料1に沿って説明。

第2回会議までの議論の中で，今回の議題に関するものについて(株)北海道二十一世紀総合研究所より資料2に沿って説明の後，議題に関する討議へ移行。各議題については以下のとおり。

### 1. 5年後の函館観光が目指すあるべき姿

事務局より議題について，資料3に沿って説明。その後，委員による意見交換を実施。事務局案について，全員異議なく同意了承した。

### 2. 基本理念について

(株)北海道二十一世紀総合研究所より議題について，資料4に沿って説明。

#### (1) 基本理念の方向性について

基本理念のスローガンを作成するにあたり，現在の函館観光を象徴する大きな課題が改善された状況から函館観光の活性化を表現した「方向性A」と，函館観光のあるべき姿の全体像を概念的に表現した「方向性B」について提示。どちらの方向性の基本理念とすべきか，委員間で討議を実施し，「方向性A」とすることに決定した。委員の主な意見は以下のとおり。

- 方向性Aの方が良いと思う。方向性Bは大きなことを言っており期待は膨らむが、具体的などころまで提言されておらず不明確な印象を受けた。方向性Aは、ぱっと見ただけで目指すところが分かりやすく伝わり、読みたい観光基本計画になると思った。
- ここで策定すべきは観光基本計画であるが、方向性Bはもう少し広い函館市全体の計画のように感じる。前回までの会議で観光事業者のための計画というコンセンサスを取っているので、今回はあえて方向性Aとし、観光業がハブとなって他の産業にも良い影響があるというのは、補足として文言の中で示す形でどうか。
- 方向性Bの方が新しく、今どきのキャッチーな言葉で表現されている。方向性Aは安定的な言葉が使われている。個人的な意見にはなるが、方向性Bの方が期待させる表現に思える。
- 前回までの議論を受けて、観光事業者がやる気を出す、やってみよう、これだったら出来るかもと思わせるものが適している。用いる言葉については、いずれの方向性でもチャレンジングな表現は選べる。評価がしやすい、皆で検証しやすいという点も含めると方向性Aの方が良いと思う。
- 主は観光事業者であるが、市民や他産業の事業者への意識は必要。その部分はきちんと言葉でケアすることが出来る。メリハリはつけた方が良い。
- 方向性がしっかりまとまっているのはAだと思うが、スローガンやサブタイトルで考えた時にAだと特化している印象なので、函館市民にとってどう観光業が必要だっというところで、Bを若干用いても良いかと思う。ただ、方向性Bは前回と似たような印象を受ける。

## (2) 基本理念のスローガンについて

基本理念のスローガンについて委員間で討議を実施。スローガン(案)については「価値を高める観光で函館を照らす」に決定。委員の主な意見は以下のとおり。

- ぱっと見て印象に残るのはA-5。「,」が目を引く。
- 資料2-1にあった「夢のある街」という言葉が良いと思った。市民向けのアピールとしてサブタイトルなどに使えないか。
- 前回会議の我々の思いが分かりやすい、かつ、検証もしやすいという観点から考えると、A-4は具体的が良いが、スローガンというよりは企業のアクションプランのようで、夢がない。
- 「コンテンツの拡大」という言葉は耳触りが良いが、コンテンツという言葉の定義、拡大の是非についても議論になる。耳触りの良い言葉は注意が必要だと思う。
- この5年間は質の高い観光や付加価値など、いかに価値を高めるかという方向性かと思う。フランスはオーバーツーリズムが問題となり、観光客を増やすのをやめた。経済効果がないお金を使わない客が増えてしまうと住んでいる人たちに迷惑がかかるという考え方。真似する訳ではないが、方向性的にはそちらに向かっていくと思う。ただそれをそのまま表現してしまうとスローガンにはあまり適さないか。
- スローガンなので露骨な言葉ではなく、少し上品にやわらかくした言葉を選ぶべき。
- 口語的な表現を入れたものとするか、よりかっちりとした表現とするか、この二つの方向性もある。ただあまりやわらかくしすぎると、観光キャンペーンのようになってしまう。だが、あえて観光キャンペーンにも使えるような言葉を入れておくという手もある。
- 観光事業者にとっては「観光」というワードを入れた方がわかりやすい。

- スローガンなので、皆に観光中心だということをどれだけ分かりやすくアピールできるか、また、観光事業者の方々の心に火をつけられるかという観点で見るべき。
- スローガンについては観光事業者向けにかたい言葉で表現し、サブタイトルで、市民向けにソフトでキャンペーン的な言葉で表現してはどうか。
- 「価値」という語句は良い。「価値を高める観光」という表現は事業者に分かりやすい。
- 「夢」という言葉も良いが、スローガンにすると抽象的な表現になってしまう。「観光業で働くことに夢が持てる」というような形で、説明パートに入れるのは良い。
- 「函館」は入れたい。「照らす」、「明るくする」という表現を用いるのが前向きで良い。

### (3) 基本理念のサブタイトルについて

基本理念のサブタイトルについて委員間で討議を実施。サブタイトル(案)については、「もう一回、もう一泊、もう〇〇」に決定。委員の主な意見は以下のとおり。

- 「もう一回、もう一泊」という表現は、伝わりやすく良い。「もう一回、もう一泊」の後に、消費に繋げるキャッチーな言葉が入ると良い(もう一軒、もう一食、もう一杯など)。
- 遊びの感覚、楽しさを入れるというのもアイデアとして良い。例えば吹き出しで表現するなど。楽しいサブタイトルを付けたい。
- 「もう一回、もう一泊、もう〇〇」はどうか。「〇〇」の部分は皆さんに考えて入れてもらう。飲食店であれば「もう一軒」、土産物屋であれば「もう一品」など。この〇〇に入れたくなるような観光地を目指していきますという説明を説明パートに入れる。

## 3. 基本方針について

(株)北海道二十一世紀総合研究所より議題について、資料5に沿って説明。

前回の会議までに計画の方向性として確認した事項を基本方針の形とした「方針1」「方針2」の案について、委員の同意を得たい旨説明があり、これを委員長が諮ったところ、全員異議なく同意了承した。

また、(株)北海道二十一世紀総合研究所より、事務局からの提案として「方針3」を説明。さらに、方針1～3以外で基本方針とすべきものはないか委員の意見・提案を得たい旨説明があり、委員間討議を実施。方針3については、基本方針に含めることに、全員異議なく同意了承。方針4については、十分な討議時間が確保出来なかったことから、次回再度議論することとなった。

なお、各方針の語尾を動詞で揃えた方が良いとの意見があり、「方針1」は「質の高い観光により観光消費額を向上させる」とし、「方針2」は「観光の繁閑差を是正する」と修正することで整理した。

方針4に関する委員の主な意見は以下のとおり。

- 方針3に関係するこれまでの議論のキーワードの「観光業の収入増加＝その他函館市産業の発展・函館市民の豊かさに繋がる。地域循環を示す」というところはすごく大事なところ。「函館観光を盛り上げる人を増やす」という方針に括るのは少しまとめすぎてしまった印象。
- 基本理念で表現した「照らす＝観光業で函館市を明るくするんだ」ということを基本方針にお

いても盛り込むべきではないか。

- 「他産業との連携」、「域内循環を増やす」、「経済波及効果」など。
- 「域内循環」という言葉は、市民の方には分かりづらいかもしれない。

以上